

2012年第4四半期の営業利益は2.9億ドル(税引後13億ドルのハリケーン「サンディ」関連の損失を含む)、純損失は40億ドルと公表

- 第4四半期純損失は、非継続事業（インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション）の純売却損44億ドルを反映
- その他の包括利益累計額（AOCI）を除く1株当たりブック・バリューは前年比15.5%増加して57.87ドル
- 残りのAIA株式を65億ドルで売却、2.4億ドルの利益を計上
- 米国財務省は残りのAIG株式を全て売却

2013年2月21日（ニューヨーク発）：アメリカン・インターナショナル・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所銘柄:AIG）（「AIG」）は、2012年第4四半期の純損益が40億ドルの損失、希薄化後1株当たり損失が2.68ドルになったと公表しました。これに対して、2011年第4四半期は純利益が215億ドル、希薄化後1株当たり利益が11.31ドルでした。2012年通年では、純利益が34億ドル、希薄化後1株当たりでは2.04ドルとなり、これに対して2011年の純利益は206億ドル、希薄化後1株当たりでは11.01ドルでした。

2012年第4四半期の税引き後営業利益は2.9億ドル、希薄化後1株当たりでは0.20ドルとなり、これに対して2011年第4四半期の税引き後営業利益は15億ドル、希薄化後1株当たりでは0.77ドルでした。2012年通年では、税引き後営業利益は66億ドル、希薄化後1株当たりでは3.93ドルとなり、これに対して2011年はそれぞれ21億ドル、1.16ドルでした。

2012年第4四半期および通年の業績には、ハリケーン「サンディ」による税引き前異常災害損失20億ドル（税引後13億ドル）が含まれます。2012年第4四半期および通年の純利益には、インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（ILFC）の売却に対する合意に関連した非継続事業での44億ドルの純売却損が含まれ、これにより1株当たりブック・バリューは2.97ドル減少しました。2011年第4四半期および通年の純利益は、米国の連結法人税に関する繰延税金資産の評価性引当金の減算が、それぞれ193億ドル、184億ドルになったことを反映しています。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシェは以下のように述べました。「AIGの第4四半期の営業利益は、広範囲にわたるグローバルな営業基盤の力と財務力を示しています。AIGにとって米国で過去2番目に大きい異常災害となったハリケーン「サンディ」が発生したにもかかわらず、このような営業利益を達成しました。この業績には、従業員の皆さんがいかによく協力して、仕事を順調に進めているかが表れています。」

「いろいろな意味で、第4四半期は歴史に残るものとなりました。米国納税者のAIGへの投資がプラスの収益をあげたこと、非中核資産を現金化できたこと、そして再びAIGブランドに統一したことなどです。歴史を語るときには、2012年末にAIGの新たな時代が始まったことを振り返ることになるでしょう。一つのAIGとして、これまでの成果をさらに発展させていきます。中核事業のチームは新たな機会を生み出し、お客様により良いサービスを提供するために、協力し、経験を共有し、スキルを補い合っています。このような協力関係は、世界全体でAIGの成長基盤となっています。」

ベンモシェ社長兼CEOは以下のように締めくくりました。「私たちにはまだやらなければならないことがあります。2013年以降に生み出していく機会には自信があります。引き続き事業への投資に全力を投じていますが、テクノロジーと業務プロセスの合理化を通じて、効率性を高めるための措置を採り続けていきます。」

流動性、資金管理およびその他の重要な動き

- 2012年12月31日現在、AIGの株主資本は合計で980億ドルとなりました。
- 2012年第4四半期に、米国財務省は残りのAIG普通株式の売出しを完了しました。米国財務省のこれによる収入は約76億ドルで、米国政府からAIGへの金融支援は全額返済されました。2008年以降、AIG、連邦準備銀行および米国財務省による資産売却やその他の措置により、米国政府は1,823億ドル全額を回収し、更に合計227億ドルのプラスの収益を獲得しました。米国財務省は、AIG普通株式約270万株を購入するためのワラントを保有し続けます。かかるワラントを売却した場合、米国納税者に追加でプラスの収益がもたらされる見込みです。
- 2012年12月、AIGはAIAグループ・リミテッド（「AIA」）の残りすべての普通株式16.5億株を売却し、総収入は約65億ドル、利益は2.4億ドルとなりました。通年では、AIGはAIAからの利益を21億ドル計上しました。
- 2012年12月、AIGはILFCにおける持分につき最大で90%を投資家グループに売却する旨の合意を締結しました。この取引は、米国および中国において適用のある一切の規制上の審査および承認を含む、必要とされる規制上の承認を受けることが前提となっており、2013年第2四半期に完了の見込みです。完了時には、AIGは少なくとも10パーセントの持分を保有しますが、経営陣の株式発行で希薄化されます（長期的にはAIG持分は1パーセントポイント低下するとみられます）。
- 事業会社からの配当金は、第4四半期には14億ドル、2012年通年では53億ドルとなりました。いずれも、ハリケーン「サンディ」によるAIGプロパティ・カジュアリティへの資本拠出10億ドルを除きます。
- 2012年12月31日現在、親会社AIGの流動性は約161億ドルとなっており、AIA株式の売却を反映して、2012年9月30日現在の116億ドルから増加しました。

税引き後営業利益（損失）

（単位：百万米ドル）

	12月31日までの3ヶ月間		12月31日までの通期	
	2012年	2011年	2012年	2011年
保険事業：				
AIGプロパティ・カジュアリティ	\$ (945)	\$367	\$ 1,820	\$1,218
AIGライフ・アンド・リタイヤメント	\$ 1,090	912	\$ 4,160	3,277
モーゲージ・ギランティ（その他に計上）	\$ (45)	(25)	\$ 9	(97)
保険事業合計	\$ 100	1,254	\$ 5,989	4,398
直接投資	\$ 509	(27)	\$ 1,215	604
グローバル・キャピタル・マーケット	\$ 300	46	\$ 557	(11)
AIAの公正価値の増減（2012年の実現益を含む）	\$ 240	1,021	\$ 2,069	1,289
金融受け皿会社（ML III）の公正価値の増加	\$-	208	\$ 2,888	(646)
支払利息	\$ (408)	(364)	\$ (1,597)	(1,685)
全社費用および消去	\$ (356)	(470)	\$ (1,039)	(1,410)
税引き前営業利益	\$ 385	1,668	\$ 10,082	2,539
法人税経費	\$ (87)	(77)	\$ (3,187)	243
非支配的持分—米国財務省	\$-	(96)	\$ (208)	(634)
その他非支配的持分	\$ (8)	(24)	\$ (52)	(62)
AIGに帰属する税引き後営業利益	\$ 290	\$1,471	\$ 6,635	\$2,086

AIGプロパティ・カジュアリティ

AIGプロパティ・カジュアリティの2012年第4四半期の営業損益は、前年同期が3.67億ドルの利

益であったのに対し、ハリケーン「サンディ」による異常災害損失 20 億ドルを含む、9.45 億ドルの損失となりました。異常災害損失を除くと、AIG プロパティ・カジュアリティの 2012 年第 4 四半期の営業損益は 10 億ドルの利益となります。これは引受の改善、投資利益の好調を反映しています。また引き続き、付加価値の高い商品ならびに地域に事業構成をシフトさせる一方で、料率トレンドの改善からも恩恵を受けました。

2012 年第 4 四半期のコンバインド・レシオは、前年同期が 107.1 であったのに対し、125.1 となりました。2012 年第 4 四半期業績には、前年の支払準備金による正味でのマイナスの影響 1.16 億ドルが含まれています。2012 年保険事故年度第 4 四半期の調整済み損害率は、付加価値の高い事業へのシフトと価格引き上げにより、前年同期の 69.3 から 63.3 に改善しました。2012 年第 4 四半期の取得費率は 20.2 となり、事業構成の変更およびダイレクト・マーケティングの重点化により、前年同期から 1.7 ポイント上昇しました。2012 年第 4 四半期の一般営業費率は 17.3 となり、前年同期から 3.2 ポイント上昇しました。一般営業費の増加の半分以上は、戦略的措置への投資と、退職金およびその他人件費の増加に関連するものでした。

2012 年第 4 四半期の正味収入保険料は 78 億ドルで、前年同期比でほぼ横ばいでした。コマーシャル・インシュアランス事業の正味収入保険料は、現地通貨建てでは、前年同期比で横ばいでした。付加価値の高い商品と地域における増加は、リスク選択の措置、米国での超過賠償責任保険の新たな再保険プログラムにより相殺されました。コンシューマー・インシュアランス事業の正味収入保険料は現地通貨建てでは、前年同期比 0.8% 増加しました。コンシューマー・インシュアランス事業では、引き続き主要な事業ラインにおける成長戦略に重点を置く一方で、マルチ販売チャネル・アプローチの一環として、ダイレクト・マーケティングを拡大させました。

コマーシャル・インシュアランス事業の 2012 年第 4 四半期の営業損失は 8.57 億ドル、コンバインド・レシオは 130.4 となりました。これに対して、2011 年第 4 四半期の営業利益は 4.48 億ドル、コンバインド・レシオは 107.1 でした。2012 年保険事故年度第 4 四半期の調整済み損害率は、付加価値の高い事業へのシフトと価格引き上げにより、前年同期の 76.9 から 66.4 に改善しました。2012 年第 4 四半期の取得費率は 15.5 で、前年同期より 0.6 ポイント上昇しました。2012 年第 4 四半期の一般営業費率は 14.0 で、前年同期より 2.1 ポイント上昇しました。

コンシューマー・インシュアランス事業の 2012 年第 4 四半期の営業損失は 2.86 億ドル、コンバインド・レシオは 111.2 となりました。これに対して、2011 年第 4 四半期の営業利益は 1.31 億ドル、コンバインド・レシオは 98.8 でした。2012 年保険事故年度第 4 四半期の調整済み損害率は、前年同期が 57.7 であったのに対し、58.0 となりました。2012 年第 4 四半期の取得費率は 26.9 で、コンシューマー・インシュアランスの事業構成の変更とダイレクト・マーケティングへの投資の増加で、前年同期より 3.0 ポイント上昇しました。2012 年第 4 四半期の一般営業費率は 16.4 で、前年同期より 0.9 ポイント上昇しました。

AIG ライフ・アンド・リタイヤメント

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの 2012 年第 4 四半期の営業利益は、前年同期が 9.12 億ドルであったのに対し、スプレッド収入の積極的管理がプラスの影響を及ぼしたため、11 億ドルとなりました。2012 年第 4 四半期業績は、前年同期比での正味投資利益の増加、支払利息の減少、死亡請求準備金の引き当て減少により恩恵を受けました。これらの好要因は、2011 年の訴訟和解金が 2.26 億ドルと低水準であったこと、2012 年第 4 四半期の株式市況が前年同期と比べてあまり良くなかったこと、2002 年以前に発行した古い長期介護保険の損失認識準備金 6,100 万ドル、死亡率が前年と比べて高かったことにより、一部相殺されました。

2012 年第 4 四半期の正味投資利益は、前年同期から 3.43 億ドル増加して 27 億ドルとなりました。これは主に、オルタナティブ投資による利益の増加と、中国人民保険集団 (PICC) への投資の評価益 5,700 万ドルによるものです。2012 年第 4 四半期の基礎投資利回りは 5.33% となり、これに対して前年同期は 5.44% でした。これは、高利回りの債券を有利な機会で売却する一方で、金利低下により新規取得分の利回りが低下したこと、新規取得分の信用格付けが上昇したことを反映していま

す。このような基礎投資利回りの低下は、保証利率の低下によって十分補えるもので、グループ・リタイアメント商品ならびに個人向け定額年金の基礎正味投資スプレッドは、前年同期と比べて改善しました。2012年第4四半期の総合利回りは6.09%で、これに対して前年同期は5.33%でした。これは、オルタナティブ投資による利益の増加と、PICCへの投資の評価益を反映しています。

2012年第4四半期の収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期の59億ドルに対して、計52億ドルとなりました。これは主に、低金利環境でAIGライフ・アンド・リタイアメントが料率の規律を引き続き維持したため、個人向け定額年金の預かり資産が減少したことによるものです。個人向け変額年金は、販売組織の拡大、魅力的な商品設計、有利な競争環境から恩恵を受けて、2011年第4四半期に大幅に増加しました。個人向け変額年金の預かり資産は、2012年第4四半期に前年同期より50%増加して、合計12億ドルとなりました。2012年第4四半期の収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前期と比べて4.3億ドル増加しました。これは主に、個人向け変額年金およびグループ・リタイアメント商品の預かり資産が増加したことによるものです。

2012年第4四半期末現在の運用資産は、前年同期の2,569億ドルに対して2,904億ドルとなりました。これは、個人向け変額年金の増加、堅調な債券ならびに株式市況、またグローバル・キャピタル・マーケットからのステーブル・バリュー・ラップ契約の更改を反映しています。

AIGライフ・アンド・リタイアメントは親会社AIGに、2012年第4四半期には4.4億ドル、2012年通年では29億ドルの配当金を支払いました。

モーゲージ・ギャランティ

住宅ローン保証保険会社は、前年同期の2,500万ドルの営業損失に対して、2012年第4四半期には4,500万ドルの営業損失を計上しました。2012年第4四半期業績は、第一抵当権付保険契約の損失引当金の増加を反映していますが、他の事業ラインの動向が良好なことから一部相殺されました。一部の州における抵当権実行期限の延長と、今後の是正の見積りが引き下げられたことから、第一抵当権付保険の損失引当金が増加しました。

正味収入保険料は、前年同期の2億ドルに対して、2.36億ドルとなりました。国内の第一抵当権付保険契約の新規引受けは、前年同期が71億ドルであったのに対して、116億ドルとなりました。この主な要因は、前年同期と比べてモーゲージのオリジネーションが増えたことと個人にモーゲージが浸透したこと、モーゲージ・ギャランティの販売部門の拡大、新たな貸し手、販売チャネルの追加、2011年下半年に競合2社が撤退したことです。高い質を保ち、新規契約の平均FICOスコアは758、平均借入金比率は91%でした。

その他の事業

AIGのその他の事業の営業利益は、前年同期が5.02億ドルであったのに対して、2012年第4四半期には2.6億ドルを計上しました。

カンファレンス・コール

AIGは、2013年2月22日午前8時（米東部時間）より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト（<http://www.aig.com>）でリアルタイムで聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト（<http://www.aig.com/>）の投資家向けセクションでご覧いただけます。

#####

将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール（カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます）、決算報告、決算補足資料には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積もる」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。ILFC に対する AIG 持分の現金化（これには最大で 90% の IFLC に対する持分の売却が完了しているかどうか、完了している場合には、かかる売却の時期と最終的な条件が含まれます。）、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対する AIG のエクスポージャー、欧州の政府および金融機関に対する AIG のエクスポージャー、AIG のリスク管理戦略、AIG による配置可能な資本の創出、AIG の株主資本利益率および 1 株当たり利益の長期の意欲的な目標、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関する AIG の戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する AIG の戦略、そして AIG 子会社の収入およびコンバインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の見解、目標、仮定や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、市場環境の変化、天災および人災による異常災害の発生、重要な法的手続き、貯蓄貸付持株会社として、またそのように判断された場合には、システム上重要な金融機関として、AIG が対象となる新たな規制の枠組みの導入時期および適用要件、AIG の投資ポートフォリオにおける集中、格付け機関の動向、損害保険の引受けならびに保険債務に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、繰延保険獲得費用(DAC)の復元可能性に関する判断、2012 年 12 月 31 日末の AIG のフォーム 10-K による年次報告書のパート II 項目 7（「経営陣による財務状況と業績の検討および分析 (MD&A)」）およびパート I 項目 1A（「リスク要因」）で取り上げられている事項などがあります。AIG は、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースでは、最も意味があり、最も良く表し、最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。本リリース中の関連した表には、非 GAAP 型の財務数値から規定 G に基づく最も GAAP に類似した数値への調整が示されています。

AIG は、AIG に帰属する税引き後営業利益によって、継続事業の業績とその基本的な収益性を浮き彫りにすることで、各事業の営業成績をより正しく評価し、より良く理解することができると考えています。AIG に帰属する税引き後営業利益は、AIG に帰属する純利益（損失）から以下の項目を除きます。これは、非継続事業の損失（利益）、事業売却による純損失（利益）、事業売却による利益、従来の FIN48 およびその他の税金に係る調整、「過去の危機に関する問題」についての訴訟損失引当金（和解金）、繰延税金評価引当金の減算、NY 連銀前払委託手数料資産の償却、生前給付債務をヘッジするための AIG ライフ・アンド・リタイアメントの債券の公正価値の変動、給付積立金の増減と繰延保険獲得費用（DAC）、獲得事業価値（VOBA）、正味実現キャピタル・（ゲイン）ロスに関連する販売促進資産（SIA）の価値、負債の償却損（益）、正味実現キャピタル・（ゲイン）ロス、また正味実現キャピタル・（ゲイン）ロスを除く要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引です。AIG に帰属する純利益（損失）の AIG に帰属する税引き後営業利益への調整については、10 ページを参照してください。「過去の危機に関する問題」には、2008 年 9 月の流動性危機につながる出来事、ならびにこの結果生じた出来事に関連する有利な、および不利な和解が含まれます。またかかる法的事項に関連する原告として AIG が負担した弁護士費用も含まれます。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

生命保険とリタイアメント・サービス事業の収入保険料、預かり資産およびその他の収入には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。これには、生命保険収入保険料、年金契約およびミュージアルファンドの預かり資産が含まれます。AIG は、保険業界において業績の標準的な測定基準であり、AIG の保険業界での競合他社との比較

をより意味のあるものとするという理由から、この財務数値を用いています。

AIG プロパティ・カジュアリティの 2012 保険事故年度の調整済み損害率、調整済みコンバインド・レシオを提示しています。これらの比率は、異常災害損失、関連する復活保険料、前年の動向、保険料調整の控除、準備金の割引による影響を除外しています。異常災害損失はほとんどが天候や地震に関する出来事で、AIG プロパティ・カジュアリティへの正味での影響はそれぞれ 1,000 万ドルを超えました。

その他の包括利益累計額を除く 1 株当たりブック・バリューは、売却可能ポートフォリオの公正価値や外貨換算調整など期間によって大幅に変動することがある非現金項目の影響を除外しているため、投資家にとって有益な非 GAAP 型の指標だと考えます。

また、場合によって、収入および業績指標は、パートナーシップからの利益、その他利益に対するプラス要因、外国為替レートを除外して示しています。いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、継続事業の業績と基礎的な収益を明らかにして、投資家の皆様が AIG の基本的な事業それぞれの業績をより良く把握することができると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。そのような指標が開示されている場合、非 GAAP 型の財務数値から最も GAAP に類似した数値への調整が示されています。

#####

AIG グループは、世界の保険業界のリーダーであり、130 以上の国や地域で顧客にサービスを提供している。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供している。このほか、米国においては生命保険事業、リタイアメント・サービスの事業も展開している。持株会社 AIG, Inc. はニューヨークおよび東京の各証券取引所に上場している。

AIG, Inc. の追加情報については www.aig.com | YouTube : www.youtube.com/aig | Twitter : @AIG_LatestNews | LinkedIn : <http://www.linkedin.com/company/aig> を参照されたい。

AIG とは、AIG, Inc. 傘下の全世界の損害保険、生命保険、リタイアメント・サービス事業ならびに一般的な保険事業のマーケティング名である。より詳細な情報については当社のホームページ (www.aig.com) を参照されたい。全ての商品およびサービスは AIG, Inc. 傘下の子会社または関連会社により引き受けまたは提供されている。これら商品およびサービスは一部の地域では利用できない可能性があり、実際の契約に準拠する。保険以外の商品・サービスは、独立した第三者によって提供されることがある。一部の損害保険の補償については、サープラス・ラインの保険会社によって提供される可能性がある。サープラス・ラインの保険会社は、一般的に米国州政府保証基金に加入しないため、当該基金による保証は行われぬ。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	12月31日までの3ヶ月間			12月31日までの12ヶ月間			
	2012年	2011年	増減(%)	2012年	2011年	増減(%)	
AIG プロパティ・カジュアリティの事業：							
正味収入保険料	\$ 7,809	\$ 7,848	(0.5)	% \$ 34,436	\$ 34,840	(1.2)	%
正味既経過保険料	8,613	8,962	(3.9)	34,873	35,689	(2.3)	
請求および請求調整費用	7,545	6,675	13.0	25,785	27,949	(7.7)	
取得費用	1,737	1,657	4.8	6,936	6,464	7.3	
一般営業費用	1,493	1,266	17.9	5,152	4,406	16.9	
事業損失	(2,162)	(636)	(239.9)	(3,000)	(3,130)	4.2	
正味投資利益	1,217	1,003	21.3	4,820	4,348	10.9	
営業利益 (損失)	(945)	367	-	1,820	1,218	49.4	
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	(51)	454	-	(2)	607	-	
訴訟和解金	17	-	-	17	-	-	
その他の利益 (損失)	(4)	(4)	-	2	(5)	-	
税引き前利益 (損失)	\$ (983)	\$ 817	-	\$ 1,837	\$ 1,820	0.9	
損害率	87.6	74.5		73.9	78.3		
取得費率	20.2	18.5		19.9	18.1		
一般営業費率	17.3	14.1		14.8	12.4		
コンバインド・レシオ	125.1	107.1		108.6	108.8		
AIG ライフ・アンド・リタイアメントの事業：							
収入保険料の売上	\$ 626	\$ 639	(2.0)	\$ 2,428	\$ 2,513	(3.4)	
保険証券発行手数料	735	681	7.9	2,791	2,705	3.2	
正味投資利益	2,715	2,372	14.5	10,718	9,882	8.5	
その他の利益	9	209	(95.7)	9	209	(95.7)	
収入合計	4,085	3,901	4.7	15,946	15,309	4.2	
給付および費用	2,995	2,989	0.2	11,786	12,032	(2.0)	
営業利益	1,090	912	19.5	4,160	3,277	26.9	
訴訟和解金	154	-	-	154	-	-	
生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動、支払利息を除く	(11)	-	-	37	-	-	
給付金積立金の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA	(81)	(132)	38.6	(1,201)	(327)	(267.3)	
正味実現キャピタル・ゲイン (a)	100	97	3.1	630	6	-	
税引き前利益	1,252	877	42.8	3,780	2,956	27.9	
その他の事業、営業利益 (損失)	260	502	(48.2)	4,124	(1,774)	-	
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前 税引き前利益 (損失)	290	979	(70.4)	3,398	(4,715)	-	
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (a)	98	173	(43.4)	501	12	-	
会社間連結・消去調整 (a)	(28)	(75)	62.7	(194)	43	-	
継続事業のタックス・エクスペンス (ベネフィット) 調整前利益 (損失)	629	2,771	(77.3)	9,322	116	-	
タックス・エクスペンス (ベネフィット)	246	(18,737)	-	1,570	(19,424)	-	
継続事業の純利益 (損失)	383	21,508	(98.2)	7,752	19,540	(60.3)	
非継続事業の利益 (損失)、税引き後	(4,332)	94	-	(4,052)	1,790	-	
純利益 (損失)	(3,949)	21,602	-	3,700	21,330	(82.7)	
控除：							
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益：							
非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	-	96	-	208	634	(67.2)	
その他	9	26	(65.4)	54	54	-	
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益	9	122	(92.6)	262	688	(61.9)	
非支配的持分に帰属する非継続事業の純利益	-	1	-	-	20	-	
非支配的持分に帰属する純利益	9	123	(92.7)	262	708	(63.0)	
AIG に帰属する純利益 (損失)	(3,958)	21,479	-	3,438	20,622	(83.3)	
AIG 普通株主に帰属する純利益 (損失)	\$ (3,958)	\$ 21,479	-	% \$ 3,438	\$ 19,810	-	%

財務ハイライト（続き）

	12月31日までの3ヶ月間			12月31日までの12ヶ月間		
	2012年	2011年	増減(%)	2012年	2011年	増減(%)
AIGに帰属する純利益(損失)	\$ (3,958)	\$ 21,479	- %	3,438	20,622	(83.3) %
AIGに帰属する税引き後営業利益の調整（税引き後）						
非継続事業の（利益）損失	4,332	(93)	-	4,052	(1,770)	-
事業売却の純損失（利益）	(1)	(1)	-	1	48	(97.9)
事業売却の利益	-	-	-	-	(16)	-
従来のFINによる項目およびその他の税金の調整	200	-	-	543	-	-
過去の危機に関する問題に関連する訴訟損失引当金（和解金）	(129)	6	-	353	13	-
繰延税金資産評価引当金減算	(116)	(19,252)	99.4	(1,911)	(18,307)	(89.6)
NY連銀前払委託手数料資産償却	-	-	-	-	2,358	-
生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動	7	-	-	(24)	-	-
給付積立金の増減と、正味実現キャピタル・（ゲイン）ロスに関連するDAC、VOBA、SIA	52	83	(37.3)	781	202	286.6
負債の償却損（益）	-	(328)	-	6	(520)	-
正味実現キャピタル・（ゲイン）ロス	(97)	(414)	76.6	(586)	(460)	(27.4)
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）を除く	-	(9)	-	(18)	(84)	78.6
AIGに帰属する税引き後営業利益（損失）	\$ 290	\$ 1,471	(80.3)	6,635	2,086	218.1
普通株式1株当たり利益（損失） - 希薄化後：						
AIG普通株主に帰属する純利益（損失）	\$ (2.68)	\$ 11.31	-	\$ 2.04	\$ 11.01	(81.5)
AIGに帰属する税引き後営業利益	\$ 0.20	\$ 0.77	(74.0)	\$ 3.93	\$ 1.16	239.0
1株当たりブック・バリュー(b)				\$ 66.38	\$ 53.53	24.0 %
その他の包括利益累計額を除く1株当たりブック・バリュー(c)				\$ 57.87	\$ 50.11	15.5 %
株主資本利益率 (d)	NM	NM		3.4%	24.1%	
その他の包括利益累計額を除く株主資本利益率(e)	NM	NM		3.7%	26.6%	
株主資本利益率—税引き後営業利益 (f)	1.3%	7.0%		7.2%	2.7%	

財務ハイライト特記事項

* 規定Gに従った調整を含んでいます。

- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない、為替差損益を含むヘッジ取引からの利益（損失）を含んでいます。
- AIG株主資本合計を発行済み株式で割ったものを示しています。
- その他の包括利益累計額（AOCI）を除くAIG株主資本合計を発行済み株式で割ったものを示しています。2012年12月31日より前の金額は、AIG株主資本の内訳の表示を修正するために、AOCIから追加払込資本への法人税の再分類を反映して修正されています。
- AIGに帰属する実際または年間の純利益（損失）を、AIG平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。
- AIGに帰属する実際または年間の純利益（損失）を、その他の包括利益累計額（AOCI）を除くAIG平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。
- 実際または年間の税引き後営業利益を、その他の包括利益累計額（AOCI）を除くAIG平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。

NM—重要でない